令和７年度第１回居合道三段以下審査会講評

教士七段　鬼久保 信夫

令和７年９月２７日(土)に東京武道館大武道場におきまして、居合道三段以下審査が開催されました。

早朝よりご準備くださいました役員ならびに係員の先生方に厚く御礼申し上げます。

当日の実技指定技は、各段共通　一本目(前)、四本目(柄当て)、六本目(諸手突き)、七本目(三方切り)、九本目(添え手突き)でした。

見事に合格されました方、誠におめでとうございます。更なるご活躍と次の段位に向けてのご精進を祈念申し上げます。また、若干名あと１歩の方がおられましたが、稽古を重ね、次回審査にて合格を勝ち取ってください。

私は第二会場の審査員を担当させていただきましたが、特に感じましたことを記させていただきます。

【学科】

学科担当審査員より、初段、三段で各１名の不合格があり、設問にそぐわない解答ならびに規定枚数を超えていたとの指摘をいただきました。審査要項を熟読したうえで記述し、最後に自分の意見・考え方を添え、必ず指導者のチェックを受けるようにされてください。

【実技】

受験段位以上の技前をお持ちの方も多くおられました。

初段から三段までは、審査実施要領に「正しい」ことが着眼点と記載されています。三段までに基本を身に付け、高段者を目指して頑張ってください。

〇礼法

最初の刀礼で、刀を前に置くとき、左手で鐺を掴んでいる方、帯刀した後に左手で鍔や鞘を動かしている方を見かけました。いずれも解説書と異なる所作です。注意されてください。

〇一本目(前)

振りかぶりの剣先が落ちている方を見かけました。剣先が落ちないことが、近年の指導重点となっております。手の掛け方、手首や肘の使い方を修練されてください。

〇四本目（柄当て）

後ろの敵を突くため刀を抜くとき、右膝が前に倒れる方を見かけました。これでは体勢が崩れ、十分な突きが出来ません。原因は、鞘引きが足らないためです。左手を効かせる修練をされてください。

〇六本目（諸手突き）

後ろの敵を切る際、振りかぶりが剣先から上がる方を見かけました。手の内を緩め、受け流しに振りかぶる修練をされてください。

〇七本目（三方切り）

右の敵を切る際、左足が十分に回転していない方を見かけました。体が効いていないと十分な切りが出来ません。足捌き、体捌きの修練をされてください。

〇九本目（添え手突き）

左の敵を突くため、刀を右腰に取る際、剣先を見てしまったり、首が右に傾く方を見かけました。視線ならびに体勢を崩さない修練をされてください。

私見ではありますが、全剣連居合は、十分な足捌き・体捌きが出来ているうえでの切りを求めているように感じます。

恥ずかしながら私も、切ることだけに目を向け、後からの修正に苦労したことがあります。

どうぞ、基本動作を大切にされ、更なるご精進と今後の高段者に求められる対敵動作を身に付けられ、ご自身の居合道を邁進なさってください。